

# 『表面技術』投稿原稿作成の手引き

(令和2年11月4日改定)

## 1. 投稿原稿の体裁

- 1.1 投稿原稿は、A4判用紙を縦長として用い、その片面にワードプロセッサにより作成する。上部余白35 mm、下部余白30 mm、左右余白30 mmとし、和文は明朝系12ポイント、行間2行で、英文はTimesおよびSymbolの12ポイント、ダブルスペースで作成する。
- 1.2 第1ページ目に、論文題目、著者名、所属機関名とその所在地の順で記載する。次ページ以降に、要旨、キーワード、本文、表・図の表題およびその説明、表、図の順にそろえる。表紙を第1ページとし、通しページ番号をつける。

## 2. 投稿原稿の構成

- 2.1 投稿原稿は、以下のa~fを合わせたものとする。
  - a. 論文題目、著者名、研究機関名とその所在地
  - b. 要旨
  - c. キーワード
  - d. 本文
  - e. 表・図の表題およびその説明
  - f. 表、図
- 2.2 論文題目

論文題目は、和英両文を記載し、その論文の内容を的確に表した簡潔な表題とする（「○○に関する研究（第○報）」等の表現は避ける）。やむを得ず包括的な主題が必要な場合には脚注の形式をとる。

### 2.3 著者名、研究機関名とその所在地

すべて和英両文で記載する。著者名は、和文は姓名を、英文はfirst name, middle nameのイニシャル, family nameを記載する。読者からの問い合わせに対応する連絡著者を指定し、その右肩にアスタリスク(\*)を付す。すべての著者の所属機関名とその所在地（郵便番号を含む）、および連絡著者の電子メールアドレスを記載する。

### 2.4 要旨

要旨は英文とし、「研究論文」、「技術論文」は150~250語にまとめる。「ノート」、「速報論文」は60語以内とする。

なお、要旨の英文作成を本会に依頼する場合は原稿にその旨を記し、かつtechnical termの和英対照表を添付した和文要旨の原稿を提出すること。翻訳料は実費を徴収する。

### 2.5 キーワード

キーワードは英語語句5項目以内とし、1項目は3語以内とする。

### 2.6 本文の項目

「研究論文」、「技術論文」および「速報論文」の本文は、緒言、方法、結果、考察、結言、文献の項目からなる（ただし、「速報論文」に限り、このうち不必要な項目は省いてもかまわない）。

「ノート」の本文は、目的、方法、結果の項目からなる。

### 2.7 本文の章、節、項の表記

本文の章、節、項はポイントシステムを用い、次の記号で表す。

- 章 1. …… 2. …… (大見出し)  
節 1. 1 …… 2. 1 …… (中見出し)  
項 1. 1. 1 …… 2. 1. 1 …… (小見出し)

なお、小見出し以下の区分は1), 2)・・・を用いる。また、本文中の大見出しは、その上を1行あける。

### 2.8 文献の引用

文献は該当人名あるいは事項の右肩に<sup>1)</sup>のように通し番号を付し、本文の末尾にまとめる。未発表その他引用不可能なものを文献としてはならない。ただし、本誌または他の学会誌投稿中で掲載が決定されているものは「in print」と記して引用してよい。DOIが割り振られている場合は、記載することができる。

### 2.9 文献の表記

文献のリストはすべて英語で表記することを原則とする。外国語文献の略し方および記号は原則として“Chemical Abstracts”に従う。著者名はJ. H. Whiteのように記し、複数の著者および同一文献に関する省略形(et al., ibid.等)は用いない。リスト中の英数字および記号はすべて半角とする。

<記載例>

#### A. 雑誌の場合

著者名；誌名(イタリック体)、巻数(ボールド体)、通巻ページ(発行年)の順とする。

- 1) J. Iwamoto; *Kinzoku Hyomen Gijutsu*, **22**, 744 (1971).
  - 2) J. H. White, M. C. Green, A. F. Yellow; *J. Electrochem. Soc.*, **98**, 345 (1951).
- ただし通巻ページのないものは巻数のあとに( )で号数または発行月を入れる。
- 3) G. Kanda; *Hyomen Shori*, **21**, (8), 37 (1971).

なお、本誌を引用する場合は、1988年以前は*Kinzoku Hyomen Gijutsu*、1989年~2001年は*Hyomen Gijutsu*、2002年以降は*J. Surf. Finish. Soc. Jpn.*とする。

#### B. 単行本の場合

著者名；書名、ページ(発行所、発行年)の順とする。

- 4) K. Oikawa; *Surface Technology*, p. 100 (Surf. Finish. Pub. Ltd., 1980).
- 5) G. B. Miller; *Surface Finishing Systems*, J. H. White, A. F. Yellow eds., p. 305 (Am. Soc. Met. Finish. Pub. Ltd., 1983).
- 6) K. Wilson; *Proc. 10th World Cong. Surf. Finish.*, p. 123 (Surf. Finish. Soc. Jpn., 1995).

なお、本会講演大会講演要旨集を引用する場合は、以下のように記載する。

- 7) K. Oikawa, G. Kanda; *Abst. 118th Meet.*, p. 123 (Surf. Finish. Soc. Jpn., 2008).

#### C. 特許の場合

- 8) T. Tashiro; JP2002-345678 (2002).
- 9) K. Oikawa; JP3752522 (2006).
- 10) T. R. Brown; US Pat. 523478 (1968).

### 2.10 表・図の表題およびその説明

すべて英文を用いて別紙にまとめる。冒頭の文字のみ大文字とする。

## 2. 11 表, 図

1 件の原稿における表および図の数は、「研究論文」、「技術論文」は計 10 以内、「ノート」および「速報論文」は計 3 以内を原則とする。ただし、編集委員会が特に必要と認めた場合には、上記の制限を超えることができる。表および図の表し方は別掲の『表, 図の表し方の手引き』に基づく。

## 3. 術語と単位

3. 1 術語は文部科学省監修「学術用語集」を基準とする。
3. 2 周知でない略語, 略号, 術語, 物質名, 装置名, 方法名などを用いる場合は, 本文中に一旦その説明を記載する。なお, その説明は脚注を用いてもよい。脚注は\*, \*\*の記号で示し, 当該原稿のページまたは次ページの下段に線を引いて区分して記載する。
3. 3 数量の単位は国際単位系 (SI unit) を原則とする。他の単位系を使用する場合はその単位の SI 単位に対する換算表を末尾に添付することとする。ただし, 同一原稿中での単位系の混用は認めない。

## 4. 漢字とかなづかい, スペリングおよび数字と式

4. 1 原稿に使用する漢字およびかなづかいは, 常用漢字および現代かなづかいを原則とする。英文のスペリングは米式に統一する。
4. 2 数字はアラビア数字を原則とする。けた数の多い数字は原則として 10 の累乗を用いて表現する (例えば 58,300 は  $5.83 \times 10^4$  と表現する。  $5.83 \cdot 10^4$  とはしない)。
4. 3 文章中の分数は,  $\frac{x}{a}$ ,  $\frac{y}{b+c}$  とせず,  $x/a$ ,  $y/(b+c)$  と 1 行に書く。ただし, 式の中ではこの限りではない。
4. 4 分数式, 積分記号  $\int$  および総和記号  $\Sigma$  は 2 行分を使用する。
4. 5 括弧の順序は  $\{ \{ ( ) \} \}$  とする。式が一行の途中で切れるときは, 次行のはじめに  $\times$ ,  $+$ ,  $-$  などの符号がくるようにする。

## 5. 字 体

5. 1 物理量を表す記号 (量記号) はイタリック体とする。
5. 2 単位を表す記号 (単位記号) は原則として小文字のローマン体とする。ただし, 固有名詞に由来するものは頭文字を大文字とする。  
※「リットル」(非 SI 単位系)の記号はなるべく SI 単位系の  $\text{dm}^3$  を用いる。やむを得ず使用する場合は誤読をさけるため例外として大文字 L を用いる。
5. 3 特殊な字体および添字を指定する場合は, 正原稿に朱書きする。

-----  
注 刷り上がりページ数を知りたい時は以下の方法で算定する

- a. 本文の全行数 (27 字/行) を求める。  
会誌 1 ページは, 27 字  $\times$  52 行  $\times$  2 段 (総文字数 2,808 字) でレイアウトされる。
- b. 論文題目および著者名, 所属, 住所, キーワードは, 和文および英文を合わせて 36 行とする。
- c. 要旨は, その英文行数を求め, 必要行数とする。
- d. 表はその各行, 横罫, 上下の各余白すべて 1 原稿行に相当する。ただし, 横幅が 86 mm 以上 (スペースも加算する) の場合は片欄に収まらないので, その原稿行数は 2 倍となる。これにより表の原稿行数を求める。
- e. 図は片欄 (横幅が 85 mm 以内) に収まる場合は縮尺された図の縦の長さを求め, これを表面技術誌の本文部分に当てはめて必要行数を求める。片欄に収まらない場合 (横幅が 86 mm 以上 180 mm 以内) は上記の行数を 2 倍する。
- f. 表・図の表題およびその説明の行数を求める。

以上の a ~ f の総和を 104 (原稿行数/刷り上がりページ) で割った値が刷り上がりページ数  $x$  である。すなわち,

$$x = (a + b + c + d + e + f) / 104$$